医療型障害児入所・療養介護・短期入所（※重症心身障害児（者）施設）児童発達支援・放課後等デイ・生活介護（障害児・者 通所支援施設）
特定相談事業所　明和ねむの木　TEL:0596-52-0150

なでしこ通信

令和6年10月10日発行
vol.191

三重県済生会明和病院 なでしこ　〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435
TEL・FAX：0596-53-0010　Eメール：nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児（者）に特化しているため旧名称を記載しております

還　暦

～ 素敵な家族と一緒に ～

７月11日（木）、その日は朝からあいにくの雨模様でしたが、なでしこ内では非常に目出度い催し物がありました。ゆうきさんの還暦祝いです。

感染対策上皆と一緒にフロアでお祝いとはいきませんでしたが、ZOOMを利用してリアルタイムでお祝いすることができました。ゆうきさんの大好きな歌の合唱を聞いたり、ゆうきさんの好きな花火の動画を見たりして楽しく過ごしました。

そしてお母さんからお祝いのメッセージも頂き、途中でお母さんが涙ぐむ場面もあり、これからも元気でいてほしいという想いが一杯に詰まった素敵なメッセージでした。

最後は記念撮影も行い、中庭にテントを建てて家族みんなと担当職員と一緒に記念撮影。ニッコリ笑顔を見せてくれたゆうきさん、これからも元気で長生きしてくださいね。

（介護福祉士：山口）

はじめまして

乙部　裕 先生

皆さま初めまして。2024年７月から非常勤医として着任いたしました小児科の乙部裕と申します。専門は新生児科であり、県内総合病院の小児科病棟・新生児集中治療室を中心に勤務してきました。現在は三重大学小児循環器科の大学院生として勉強中です。

着任をきっかけに明和のことを身近に知ることとなりました。山や田園風景が美しく、自然にあふれた町という印象を受けました。「なでしこ」も木々に囲まれた閑静な環境にあり、利用者の方々ものびやかに過ごしておられるように感じています。病棟内の診療に限らず、患者さまの外出や学校への登校など、医療・福祉の両輪を提供できるようスタッフの一員として頑張ります。よろしくお願いいたします。

（小児科：乙部裕）

七夕行事

なでしこ入所・通所にて、七夕行事が行われました。
通所は『七夕オセロゲーム』を行いました。
七夕にちなんだクイズに答えながらゲームを進め、盛り上がりました。
オセロの駒は、職員手作りの星型の駒☆季節感を感じられる楽しい活動となりました。
入所は、事前に利用者さんに書いてもらった短冊を笹に飾り、
最後は夜空をイメージしたスヌーズレンで七夕の夜の雰囲気を皆さんで満喫しました。
利用者さんの願いが叶いますように✧

（通所保育士：大西）

なでしこに絵の本ひろばが来た!

明和町の集落支援員さんより「絵の本ひろば」をなでしこで実施したいという依頼がありました。「絵の本ひろば」とは絵本の読み聞かせではなく自分が見たい絵本を選んで楽しんだり、誰かと一緒に絵本を見て過ごす空間を楽しんでもらうというものです。昨年度「絵の本ひろば」は明和町の幼稚園やこども園などで行われました。子どもたちに寄り添って一緒に絵本を見ながら過ごす空間を楽しまれました。なでしこでも絵本を見て一緒に過ごす空間を楽しんでいただきたいという思いを聞いて実施することになりました。

なでしこでの実施にあたり各地で絵の本ひろばを主催している加藤啓子さん、集落支援員さん、学生のボランティアの皆さんが絵本の設置や搬入をしてくださり、そして一緒に絵本を選んだり、読んだりしていただきました。利用者さんはご飯が載ったおいしそうな絵本やサイズがとても大きな絵本、顔に当ててお面のようにする絵本や、頭にくっつけて帽子にする絵本など思い思いに好きな絵本を選びました。利用者さんはもちろんなでしこの職員も笑顔になる素敵なイベントとなりました。（なでしこフロアにて６/13(木)実施）

（児童指導員：一星）

通所

夏遊び週間

～ 夏だ!屋台だ!花火だ! ～

なでしこ通所では７月25日(木)～ 31日(水)の１週間を夏遊び週間として、夏を感じる行事を行いました。スタンプラリー形式で、金魚すくいやわた菓子、射的、引っ張れ野菜などの屋台に挑戦。本物にそっくりな夏野菜を引っ張り、嬉しそうに喜ぶ姿もあれば、苦手な野菜だな～と苦笑いする姿もありました。一番人気の射的では、ボールをしっかりと引っ張り的を狙います。放したボールが的に当たって喜んだり、外れて悔しがったりと大盛り上がりでした。

あっという間に時間は過ぎ、最後は全国の花火大会の映像を天井に映し、みんなで鑑賞しました。夜空に色とりどりの花火が上がり、「きれい～」とうっとり。

利用者も職員も夏を感じることのできる楽しい夏遊びとなりました。

（看護主任：川﨑）

連載コラム

日頃からの繋がり

被災地では長期の避難所生活による環境の変化に不安を抱える高齢者や障害者が多い。こうした配慮が必要な人たちを災害時に受け入れる「福祉避難所」の開設も思うように進んでおらず、災害弱者への対応が求められている。

「今回も第一に息子とどうやって逃げようかと、すぐそっちに思考が動く」北海道芽室市町内の障害者の親や障害者本人らでつくる「どんぐり会」の田口恵美子さんは、ニュースを見て真っ先に息子のことが頭に浮かんだ。日中は障害者福祉の事業所で働き、夜は施設で生活しているため、休みの日しか一緒にいる時間はない。これまでも自然災害など悲惨な報道を耳にするたびに「自分だったら…」と考えるという。

他の避難者とのトラブルを避けるためにも、障害者の家族が求めるのは、真っ先に駆け込んで安心した避難生活を送ることができる居場所だ。当時、「持病や障害が周囲に迷惑を掛ける」と避難所へ行かず自宅や車中で過ごした人やその家族の支援もした。「介護を受ける人だけではなく、介護する人、一緒にいる人にもリスクがはらんでいる」「自助だけではいけない。互助・公助の力が本当に重要」等の意見がある。

（福祉ニュース 障害福祉編
2024年4月号より抜粋）

近年、大規模な災害が頻発していることで障害者や高齢者の防災に対する関心が高まってはいるが、まだまだ課題や改善するべき点は多いと感じる。地域や事業者で行われている避難訓練は、いわゆる健常者を想定したもので、ここでも身体に障害のある人は置き去りにされがちだ。身体に障害のある人やその家族にとって、災害発生時に「助けて」と声を上げるのはとても勇気のいることだと思う。「みんなも大変な時に、迷惑をかけてはいけない」という思いから、避難することを諦めてしまう人さえいるという。だからこそ、当事者も周囲の人も日頃から声をかけ合い、互いの存在を意識し合う事が重要になると感じた。一般的な災害への備えとして、家具の固定、防災ルートの確認、避難時持ち出し品の準備など様々な対策があるが、近所の人と顔を合わせるたびに「こんにちは」「いいお天気ですね」と挨拶を交わす。そんな日頃からの繋がりが、万が一の時に命を守るという事もしっかりと覚えておきたい。

（理学療法士：中西）

第21回みえる輪ネット

7月28日（日）、第21回みえる輪ネットがオンラインで開催されました。今回は「この地域で安全に自分らしく生きていきたい」をテーマに、紀北圏域での医療的ケア児の就学に向けた事例発表の他、令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の内容から医療的ケア児者への支援に関連する部分の説明と、沖縄県難病相談支援センターの照喜名様より沖縄での災害の取り組みについて、ご講演をしていただきました。

事例発表では、前例がない中で多くの関係者が医療的ケア児の就学に向けて取り組まれた経緯を聞かせていただくことで、本人を取り巻く全ての関係者との連携や家族の想いに寄り添うことの大切さを改めて実感することができました。沖縄での災害の取り組みでは、実際の避難訓練時の状況を聞かせていただき、避難時の持ち物や備蓄等の確認だけでなく、定期的に見直しを行うことの重要性を学ぶことができました。

日々のつながりや積み重ねが大きな支えになることを肝に銘じ、今後もみえる輪ネットの事務局として努力していきたいと思います。

（療育係長：鈴木）

ご寄付をお願いいたします

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。

※なでしこ通信の発行は3カ月に1回となります。　※本誌に記入されている写真は本人または、家族の了承を得て使用しています。